

国立大学法人九州大学入札監視委員会定例会議 議事概要

開催日及び場所	令和3年1月27日(水) 日本ジョナサン・KS・チョイ文化館(伊都キャンパス内)	
委員	委員長 新関 輝夫(藤井・梅田法律事務所) 委員 日下 健太(日下健太公認会計士税理士事務所) 委員 永友 清司(株式会社キューデン・グッドライフ)	
審議対象期間	九州大学、福岡教育大学、九州工業大学 令和元年7月～令和2年6月	
抽出案件(合計)	9件	(備考)
工事(小計)	7件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。 11月の入札監視委員会予備会議(メール回議)にて委員より抽出された案件について個別審議を行った。 その際、説明資料に基づき各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。
一般競争(政府調達協定対象工事)	2件	
一般競争(政府調達協定対象工事を除く)	5件	
公募型指名及び工事希望型競争	件	
通常指名競争	件	
随意契約	件	
設計・コンサルティング業務	2件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

※ 委員からの意見・質問、それに対する回答等はできるだけ詳細に記入すること

質 問	回 答
<p>九州大学 (1) 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1：総括表(建設工事) (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料2：総括表(設計・コンサルティング業務) (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料3：指名停止一覧表について (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>(2) 予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p> <p>資料4：(伊都)農学系実習棟等新営その他工事 【総合評価落札方式(標準型)】</p> <p>・今年にはコロナが起こったからということで電子入札で行っているのか。それとも、常に電子入札でやっているのか。</p> <p>・1社しかいないと、その予定価格になるべく合せて値段を下げてくるということがある。電子入札だったら他に入札者がいるかいないか応札者はわからないということか。</p> <p>・農業系の実習棟ということで、工事の用途による特殊性等はあるのか。</p>	<p>・電子入札システムが利用できる業者は電子入札で参加しており、電子入札が利用できない業者は紙入札で参加している。</p> <p>・そのとおりである。</p> <p>・配置図に示しているとおおり、比較的小さな建物を複数建てるような工事内容となっている。そのため、建物の棟数としてはかなり多いのが本工事の特徴である。</p>

質 問	回 答
<p>・農場系だから技術的特殊性があるという意味ではないのか。</p> <p>・改善策において「改善策としては、工事内容によって参加資格の要件を見直す」とのことであるが、この「工事内容により」というのは具体的にどのような形を考えているのか。</p> <p>・入札情報の集計方法というのは、ここに書かれている公告とか、それ以外に例えば「翌年度の予算が決まらなないと確定しない」、「こういう工事が出そうだ」という大まかな計画などの開示は難しいものなのか。</p> <p>資料5：(箱崎)旧理・工・農・人文社会科学系地区跡地汚染土壌処理等工事【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <p>・本件のような土壌汚染処理というのは、施工可能な事業者がたくさんあるのか。それとも当初からある程度少ないだろうとの予測はあるのか。</p> <p>・改善策における「発注時期の調整」について、公告期間を変えるというのは、実質的には可能なのか。</p>	<p>・農場の関連施設なので、乳牛舎だとか農機具の置場だとか、そういった用途はあるが、特別、建築的に特殊なものが含まれているわけではない。一般的な建築をできる施工業者であれば、十分施工可能であると思っている。</p> <p>参加資格の条件として「2,000㎡以上の学校又は教育研究実験施設」となっているが、ここで、「実験施設」という言葉に少し警戒したのではという気がしている。もう少し広げておくべきであったとの反省はある。</p> <p>・国立大学全体になるが、文科省から定期的に発注見通しの照会が来ており、四半期毎の工事発注予定の公表を行っている。</p> <p>・今回箱崎キャンパスの跡地土壌汚染対策工事ということで、本学でもこの規模の土壌汚染対策工事をやるのは初めてとあっていい案件であった。実際、工事を請け負う業者は、多くは見込めないというのが現実だとは思いますが、それでも3～4社ぐらいは参加するだろうと期待していた。しかし、結果として1社入札となった。分析するに、特殊な工事ではあるが、中身はさほど複雑ではない。工事内容よりも周辺住民との調整の方が難儀な部分はあるが、それを踏まえた上でも参加する業者を期待していたが、結果として1社となってしまった。基礎の撤去なので、中身自体は複雑ではない。</p> <p>・大規模な工事なので今後類似の工事が発生するか否かは想定しづらいところではあるが、事前の調整作業は可能と考える。</p>

質 問	回 答
<p>・参加企業の名前とか過去の企業がどこであったのかは分かると思うが、そのあたりの検査、あるいは調査は最初からやってないのか。</p> <p>・単体でない場合については、他の企業についても参加資格を満たしているか調査するのか。</p> <p>・掘削状況について、汚染された土壌は構内で処理されるのか。それともどこかへ持ち出して処分場のようなところで処理されるのか。</p> <p>・本店・支店の所在というのは汚染土壌の処分場のネックにはならないのか。</p> <p>・改善策において「他機関の発注状況を確認しながら」とあるが、他機関での発注というのは、どういう形で確認できるものなのか。</p> <p>資料6：(医病)基幹・環境整備(中央病棟等とりこわし)工事【総合評価落札方式(実績評価型)】</p> <p>・改善策において「諸経費に分けて比較すると乖離がある」との記載があるが、具体的にどういった点で乖離があったかということをお聞きしたい。</p>	<p>・参加資格要件をいくつか設定しているのでそれを満たしているかは確認している。</p> <p>・他の企業についても参加資格の要件を満たしているか否かを調査している。</p> <p>・この業務を実施するときには洗浄のプラントを構内に設けており、洗浄できるものはすべてそこで洗浄し、きれいになった土を埋め戻している。残った汚れたものについては処分場に持ち込んで処分するという形をとっている。</p> <p>・施工業者の本店支店と処分場との間に、特に関連はないと思われる。</p> <p>・他機関の発注状況について、土壌汚染の状況調査について県や市に申請しているため、どこの場所が区域指定されているのかというのは開示される。それらの情報を基に、また、施工可能業者にヒアリング等しながら発注時期を見極めていきたいと考えている。</p> <p>・業者から徴取した見積書の内容と本学の予定価格調書における金額とを比較した場合、直接工事費と各諸経費の金額及びそれらの経費の構成比率においても各業者間でばらつきがある。したがって、予定価格が業者へ伝わっていたということではなく、各企業の努力によって結果的に似通ってしまったのではないかと考えている。</p>

質 問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・とりこわし工事というのは入札額がかなり低めに出る場合が多い。今回は高めに出ており、予定価格ともそれほど違いがなかった理由は何か。 ・工事環境がかなり影響しているということか。 ・落札業者とその他3社との間に応札額の開きがかなりあるように見受けられるが、原因の分析は行うのか。 ・今回は普通の乖離ということか。 ・建物の近接性や対策費用がかかるということで、業者はその費用も見込んだということであるが、予定価格にはそれを折り込んでいるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本件は現在使っている建物にかなり近接した旧病院の一部取り壊し工事であり、業者によっては騒音振動をかなり気にするところがある。実際、病院の近隣において、苦情が出るような地域があり、そのような事情を懸念したことが理由としてあるのではないか。 ・工事環境を考慮した結果、騒音振動対策に費用がかかると見込まれた影響が出たのではないかと考える。 ・極端に乖離しているようであれば その原因の分析が必要なケースもあるが、バラつきがなだらかな状況であれば入札の結果としては有り得るものと考え。 ・どこまでが普通の乖離であるかというのはなかなか線引きが難しいところであるが、今回は倍以上など極端なケースとはなっていないので、許容範囲と考えている。 ・必要な仮設については、特記仕様書に指定仮設と記載しているので 最低限のところはクリアできていると考えている。業者側がそれで十分か否かを心配するところはあるのではないか。また、図面に出されていない項目でも、業者側が積算することはあろうかと思われる。
<p>資料7 : (伊都)ウエスト2号館等天井耐震改修工事【総合評価落札方式(実績評価型)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札結果によると入札金額において落札しなかった業者の方が安いですが、これは評価点で比べるということか。 ・今回の1件目と4件目の2つの工事を同じ業者が落札しており、前の工事が令和2年度6月26日竣工、こちらの工事が令和2年度6月25日着工ということであるが、工期の連続性、継続性というか、そのあたりが影響した可能性はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。入札価格を評価点で除して、その数値に1億を乗じた数値が評価値となる。それで金額が逆転している。 ・そういったことも十分あろうかと思われる。

質 問	回 答
<p>・結局は、特段、何が低かったというわけではないのか。</p> <p>資料8 : (伊都) ギャラリー (仮称) 新営設計業務 【随意契約】</p> <p>・寄附者の意向はどのへんまで受け容れるのかということについてお伺いしたい。例えば、建築工事をこの業者にやらせたいということを認めるか。</p> <p>・寄附者の選定はあるのか。多額の寄付をする者がいて、その者が反社会的団体などに所属しており、その者からの寄附金を受け入れ難い場合は断ることもあるのか。</p> <p>・設計は随意契約ということであるが、建築の業者決定方法は？</p> <p>・見積合せ結果等一覧表を見ると、ここに書いてある落札額と予定価格が非常に近い額となっている。予定価格はどのように算出されているか。</p>	<p>・各社、低入札となってしまったため、直接工事費の中の一部について、予定価格の積算が過剰になっていなかったかというところを検証したところ、極端に離れていた。</p> <p>しかしながら、ある特定の項目で各社とも共通して乖離があるということは見受けられなかったので、我々にとって積算上は特段に過剰ではなかったと判断している。ただ、総額として乖離してしまったというのは事実である。</p> <p>・寄附金を受け入れるにあたって、どこまで寄附者の意向を受け入れるかということであるが、実情はケース・バイ・ケースで、本学も建物を建てる場合はマスタープランや基本設計、基本的なデザイン等を予め決めている。そこから極端にかけ離れた要望が出てくれば、協議を行うことになろうかと思われる。協議にあたっては、寄附者の意向にどこまで沿えるかという観点から議論することになろうかと思われる。</p> <p>・反社会的な団体からは大学として受け入れるわけにはいかないため、本学のしかるべき部署において事前に審査は行うことになっている。</p> <p>・一般競争入札である。</p> <p>・積算基準に基づいて積算している。</p>

質 問	回 答
<p>福岡教育大学 (1) 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1：総括表(建設工事) (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料2：総括表(設計・コンサルティング業務) (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料3: 指名停止一覧表について (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>(2) 予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p> <p>資料4：(赤間)体育館床等改修工事【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <p>・8社が応札したということで、予定価格をオーバーしているものから450万円のものまでかなり違いがあるが、それはどういうことだとお考えか。</p> <p>・3社から参考見積を徴収されているが、徴収先というのは参入意欲のあるようなところから徴収されるのか。</p> <p>・逆に客観性を保つために参加しないようなところを選んで参考見積を取られるのか。そのあたりの考え方を教えていただきたい。</p>	<p>・本工事の予定価格については、すべて見積を採用している。基本的に工事内容は床のフローリングの研磨、腐敗箇所の張り替え、及び、バレーコートやバドミントンコートなどの床支柱金具の取替えのみで、比較的工事内容も簡単であり工期も短いことから、各社とも受注に熱心だったと判断している。</p> <p>・今回見積徴収した3社は入札に参加していない。見積徴収の数ヶ月後に入札を行うため、技術者を予定通り配置できないなど、状況が変わり参加できないこともある。</p> <p>・体育館という特殊性でスポーツ関係の会社を含めて見積もりをとったが、実際に入ってきたのは一般の建設企業であった。</p>

質 問	回 答
<p>・そうした知見を持たれているようなところを選ばれて着手されるのがスタンスということか。</p> <p>・今後の改善策のところ、実勢価格を情報収集して見積もりということであるが、今回に関しては実勢価格を介してということか。</p> <p>資料5：(赤間他) 基幹・環境整備(排水設備) 工事【一般競争入札(総合評価あり)】</p> <p>・入札参加者が2社で、うち1社が辞退ということであるが、同種工事の判断基準として配管径200φ以上というのはハードルが高いのか。</p> <p>・予定価格よりもオーバーしたというのは、当然伝えるが、いくらオーバーしたかということまで伝えるのか。</p> <p>・同種工事を包括発注して、スケールメリットを期待する方法と工法を分離して小回りを効かせてコストを下げると方法があるかと思うが、今回の工事については包括してやる方がメリットがあるということか。</p>	<p>・そのとおりである。</p> <p>・見積を徴取したところがスポーツ関係の企業であってこの見積業者と今回の落札業者の積算の考え方に乖離があったと思われる。今回、工事的にも安易に受注してもそんなに難易度は高いものではないので、参入意欲が高かった。工期も短いので積極的に応札に挑まれたのであろうと判断している。</p> <p>・実際に管径サイズに大小はあるが、ここで200φ以上ということがネックにあり、配管径は指定せず屋外配水管の工事实績があるなど、その程度の参加要件に下げること、もう少し参加意欲が高まったのではないかと考えている。面積規模を外す、管径サイズを外すなど、というのをこれから考えていきたい。</p> <p>・そこは秘匿になっている。別業者が最低価格を入れてきたというのは各企業とも入札画面上では判断できる。</p> <p>・そのとおりである。</p> <p>・契約事務を包括することで、1件で事務作業の効率化を図り、一括して発注している。</p>

質 問	回 答
<p>九州工業大学</p> <p>(1) 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1：総括表(建設工事) (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料2：総括表(設計・コンサルティング業務) (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>資料3: 指名停止一覧表について (令和元年7月～令和2年6月契約分)</p> <p>・特になし</p> <p>(2) 予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p> <p>資料4: (戸畑)総合研究 I 号棟空調設備改修工事 【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <p>・エアコンの入れ替えとえば、直接取替えて、多数の業者が動かれて、かなり安く落としていたようなイメージがあるのだが、特殊性が何かあるのか。</p> <p>・実際に11月であるが、今年度2月に間に合うように前倒しで工事を行うという必要性はなかったのか。</p> <p>・多少応札される事業者が増えるという期待感はあるのか。</p>	<p>・発注時期による影響があると考えられる。同じような空調機の例であるが、11月以降の発注では業者の集まりが悪く、競争性が無くなり安く落札できていない。そのため、今後は早期発注を検討していきたい。</p> <p>・他工事の発注を終えた段階になったものと思われる。その影響で時期的には遅くなってしまったのではないかと考える。</p> <p>・期待はあるのかもしれないが、実際それがどこまで影響するかはわからない。</p>

質 問	回 答
<p>資料5: (戸畑)旧体育館耐震診断業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応札者がかなりいたということは良いが、応札額にかなり差がある。このような差が出てくるということに対して何が一番問題なのか。 ・本件の耐震診断業務について、一番大事な点とは何か。 ・人件費差がつくのは賃金の高さか、それとも人数なのか。 ・過去も結構こういう実績・乖離はあったのか。 ・例えば、令和2年6月から9月で約4か月、わりと余裕のある予算設定で、その間、現場調査の時期だとか実際積算する業務など、特に制約がない形でできるようなものなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者にもよると思うが、仕事を早い時期(6月頃)にとられていない業者は、なるべくとりたいという意識があったのではないかと、本件の場合はどちらかという人件費がメインであり期間が短いので、応札業者が多数いたのだと思われる。実際、参考見積をとってる業者があり、こちらは300万円ぐらいの入札を入れているので、見積をとる業者を含めてこれから検討していきたい。 ・耐震性があることを確認することである。耐震診断にかかる費用は、人件費が一番影響していると考え。 ・安いところは、実績、官公庁契約実績が欲しいということと安くしている場合もある。 ・設計は人件費が左右するので、乖離が出る傾向がある。実績等が欲しい業者については、安く出てくる傾向があると思われる。 ・工期の設定について、見積を徴収した業者に確認して必要な業務期間を設定している。ただし、大学の夏休みなどの授業等に影響がない時期を考慮して業務期間を設定することになる。

質 問	回 答
	<p>委員総評 (九州大学、福岡教育大学、九州工業大学3大学全体について)</p> <ul style="list-style-type: none">・一者入札が依然として見受けられる。一者入札への対応策の検討が必要であることもともさることながら、落札後の履行が適正であったかという点についても検証が必要と考える。一者入札への対応策については、大学間等で情報をやり取りし、同じような工事であれば発注時期が重ならないようにすることも検討の余地があるように思われる。・低入札案件も同様に見受けらる。一者入札と同様に工事の質が大学側の要求を満たすものであったか、事後検証が重要である。・寄付金を原資として施工を行う案件については、設計内容等に寄付者の意向を反映する必要があると思われるが、一方で、そのような状況下においても大学のマスタープラン及びそれに基づく基本設計やデザインとの整合性を担保する必要もあると思われる。様々な問題が含まれるため、そのような案件の手続き方法についての検討が必要と考える。